

- 議長（滝内久生君） 次は、質問順位 6 番、1 つ、下田開港170年記念事業実施について、2 つ、人口減少問題について、3 つ、今夏の海水浴場対策について。

以上 3 件について、6 番 佐々木清和君。

〔 6 番 佐々木清和君登壇 〕

- 6 番（佐々木清和君） 皆さん、おはようございます。質問は午後かなと思っていたんですが、午前中で、ちょっと心の整理がまだつかないような状況で、よろしくお願いいたします。

再興の会の佐々木清和です。一般質問の通告に従って質問をさせていただきます。

まず、下田開港170年記念事業の実施についてお伺いしたいと思います。

2 年後の令和 6 年は下田が開港されてから170年の節目の年に当たると思います。歴史と自然を生かしたまちづくりを進めている本市は、改めて幕末下田開港の歴史的意義を明らかにし、全国に発信できるような事業の実施を進めるために、今から計画を進めるべきではないでしょうか。

下田開港170年の記念事業を、市民、各界代表を含めた実行委員会を設立して、今から準備を進めることが必要ではないでしょうか。市長のお考えをお伺いしたいと思います。

歴史的経過としては、嘉永 7 年 3 月 3 日、1854年ですが、横浜において、アメリカ合衆国全権ペリー提督と幕府との間で日米和親条約が締結されたわけですが、条約の締結は、日本の鎖国から開国へと大転換となったものと思います。その当時、開港される港は函館と下田の 2 港、函館は 1 年後、下田は直ちに開港ということになったと記憶しております。開港の場となった下田でペリー艦隊は下田港内の測量などの調査を進め、また、開港に伴う諸条件を幕府と協議し、了仙寺において下田条約の締結に至りました。この事実が現在の黒船祭の原点になっていると思います。

下田開港に伴い、欠乏品の名目で、欧米諸国との間で初めての交易が始まったのも、この下田からであります。また、一方、長州藩士の吉田松陰、金子重輔、重之輔ともいいますが、密航、踏海を企て、ペリー艦隊に乗り込もうとした事件も、この年の 3 月の 27 日の夜のことでした。

開港後の下田には、ロシア使節プチャーチン提督が座上するディアナ号が入港し、安政の大地震に巻き込まれてディアナ号が大破するという予測のできなかった事態も発生しましたが、翌年の 2 月、現在の北方領土の原点ともなった日露和親条約が締結されたのもこの下田であります。

安政 2 年には玉泉寺に日本最初のアメリカ領事館が置かれ、タウンゼント・ハリスが着任

しました。そのほか、下田にはフランス、イギリスなど外国船の入港が相次ぎました。これ記録されております。鎖国から開国へ、そして近世から近代へと歴史の大転換の出発点となったのがこの下田開港からと言えます。

歴史を開いた港町としての下田を改めて世界に発信していく機会として、下田開港170年を下田市民の力の結集によって実施されるような方策を考えていただければと思います。思いをお聞かせいただければと思います。

2として、人口減少の問題について。

令和4年度が始まった4月1日の下田の住民登録されている人口は2万287人、前年と比較すると500人近くの減少となっております。この状況から、本年度中には下田市の人口は確実に2万人を割り込み、1万人台になってしまいます。今後、このような状態で人口減少が進むとするならば、2030年代には1万人以下になってしまうことになります。

このまちに住む人が1万人以下になってしまうということは、このまちの市民経済が完全に止まってしまい、持続不可能となってしまいます。今あるスーパーも、コンビニも、下田の商店も、様々な自営業の仕事も立ち行かなくなります。確実に限界のまちに向かって急坂を転落するような形で進んでいます。

今や、市政、地域経済関係に関わる全ての団体の関係者が、そして全ての市民がこの現実を直視し、何とか人口減少を食い止める大胆な施策を展開しなければならないときに来ていると思います。

本年1月、下田市は市制施行50周年の記念の式典を行いました。この50年間、下田市の人口は1万人以上減少しているにもかかわらず、まさにこの式典から人口減少を食い止めるための施策も、そして意欲も発信されることはありませんでした。

新型コロナウイルスのパンデミックがもたらしたリモートワーク、テレワークの働き方の改革が急速に進んでいます。つまり北海道にいても沖縄にいても仕事ができるという状況になっているということです。こうした状況から、大都会から地方への人口移動が急速に進行していると思います。人口減少が続く下田市も、この状況を最大のチャンスと捉え、大勢の移住者を受け入れられるような施策の展開が急務だと思いますが、いかがお考えでしょうか。

以上述べたような人口減少の現状、私は人口の減少に歯止めをかける機会が今到来していると考えております。市長はこのような状況に対してどのようにお考えでしょうか。既に多くの自治体が大都会からの移住者を受け入れるため、独自の取組を進めています。本市において、そのような意識的な取組がなされていないことに大変残念な思いを感じております。

私はまず、下田市役所の機構の根本的な改革を進める必要があると思います。現在のような細分化された課の設置では、縦割り行政が進むのみで、多くの職員の相互間のつながりによって問題を打開するという体制になっておりません。大胆な機構改革が必要だと思っています。

私は、小さなまちであっても、部制を取り入れ、行政事務の効率化を図り、サービスと直面する行政課題を大胆に実施できる体制が必要だと思っています。その中で、特に（仮称）人口減少対策室などの設置を含め、市長、副市長が先頭に立って人口減少対策を推進すべきだと思いますが、いかがお考えでしょうか。お聞かせください。

次に、都会で暮らしている若者たちが下田で安心して子育てをし、また、自然環境や歴史を大切に、都会で働く多くの人たちが移住してくれるような魅力的なまちづくりを進めることが重要だと思っています。暮らしの環境と自然の環境を大切にする施策が大切だと思っています。脱炭素社会、海洋汚染対策を進めるまち、人々の暮らしと健康を守り人に優しいまちづくりを推進する必要があると思います。

こうした観点から、大型ごみ焼却施設を建設し、大量の二酸化炭素を排出し続け、海水浴場における不法行為を黙認するような施策は再検討されるべきです。森林と川と海の自然を守ることを市政の柱に据えるべきだと思います。いささか一般論だと思いますが、当面する人口減少対策としての私の思いです。ぜひ御検討くださることをお願いいたします。また、市長の思いがあればお答え願えればと思います。

3つ目、今夏の海水浴場対策について。

3年近くにわたる新型コロナウイルスの感染の拡大によって、観光産業に依存する本市の地域経済が大打撃を受けてきました。ようやく大型連休から黒船祭、あじさい祭、そして夏の海水浴シーズンと、回復の兆しが見えていることは確実だと思います。

一人でも多くの来遊客が迎えられよう心のもった対策が例年にも増して重要になると思っています。下田に観光で訪れた人たちに不快な思いを絶対にさせてはならないと思います。白浜海水浴場における条例を無視して不法な営業行為を行う事業者に対して、今年こそ市長の公約どおりストップできるかどうか、多くの市民が注目しております。市長就任後、3回目の海水浴場の開設になります。今年の実施に対する市長の決意をお伺いしたいと思います。よろしくお願いをいたします。

不法営業を繰り返す事業者に対して、条例に基づいて毅然として中止命令などを発出しなければならぬと思いますが、いかがでしょうか。

新聞報道によりますと、強力な警備会社に委託し、違反営業を取り締まるかのような報道

がなされております。警備会社とどのような契約をされているのか、お伺いしたいと思います。

行政事務の執行権を警備会社に委ねることはできません。市長の行政責任を転嫁するようなことにならないよう、強く要請をしたいと思います。市長の見解をお願いいたします。

今、大量の二酸化炭素排出による気候変動の危機、大量のマイクロプラスチックの海洋汚染が大問題です。海洋汚染防止のためのプラスチック類の河川、海洋に対する不法投棄の厳重な取締りが必要だと思います。地元のライフセーバーの要請など、海水浴場条例の見直しを提言してまいりましたが、条例改正への取組、改正への進行状況はいかがでしょうか。回答をお願いします。

以上、私の質問の要旨を述べさせていただきました。答弁に対するまた意見は別途させていただきます。

以上でございます。

○議長（滝内久生君） 当局の答弁を求めます。

市長。

○市長（松木正一郎君） 私からは、海水浴場について、これはこれまでも同様の質問を佐々木議員や江田議員からもいただいてきているところでございます。

御承知のように、2020年に私が7月5日に就任して3回目の夏を迎えることになります。今おっしゃったとおりです。2020年のときの対応と2021年の対応は、当然ながら違ってきます。様々な工夫をして、もっとこうしたらいいんじゃないのかということを皆さんと協議しながら進めているわけです。その現場に佐々木議員は本当に積極的に参加してくださっています。私と何度も現場でもいろんな場所でお会いになっていらっしゃると思います。

2021年にもまた新しいことをいろいろやりました。それは、地域の方々と議論する中で、法的な、厳密に言うと条例ですので、法令的な取扱いとしての文書の発出、こうしたことをしてきたわけです。警察とも協議を重ねております。このように、毎年毎年新しい取組、いわゆるチャレンジをしているところでございます。

今年度、今回の夏の今回の委託につきましても、行政事務の中で特に効果的な部分は何だろうということを考えて、補助的な業務としてお願いをしているものでございます。

私からは以上でございます。

○議長（滝内久生君） 企画課長。

○企画課長（鈴木浩之君） それでは、私のほうから1点目、下田開港170周年記念事業の実

施についてお答えをいたします。

下田市は1854年に調印された日米和親条約によりまして、鎖国以降、我が国最初の開港場となり、諸外国との交流が始まり、我が国の近代化の出発点となった歴史を記念するため、2004年、平成16年に下田開港150周年の記念事業を実施いたしました。150周年の記念事業では、2年前から庁内に記念準備係を設置し準備を進めるとともに、市民の皆様の参画を得て実行委員会を設置し、歴史シンポジウムや異文化交流プログラム等、様々な事業を展開したところでございます。

また、2014年、平成26年には、160周年の記念事業を実施し、米国から寄贈されたハナミズキの記念植樹、あるいは下田開港160周年の冠事業等を実施したところでございます。

こうした中、2024年、令和6年には開港170周年を迎えることになります。本市では本年度から、みなとオアシス、みなとまちゾーン活性化基本計画、グローバルCITYプロジェクト等、幕末開港の歴史や下田港に焦点を当てた各種の事業を開始をいたします。

こうした中で、下田港幕末開港の歴史は、本市の重要な資源、資産と捉えておりますので、改めて開港170周年となる2024年には記念事業を実施する方向で検討していきたいと考えております。

なお、具体的な事業実施の規模、内容、実施体制等につきましては、今後、関係者の皆様と協議を行いながら進めていきたいと考えております。

続きまして、2点目、人口減少問題について、総論的な部分を企画のほうからお答えさせていただきます。

下田市将来人口ビジョンにおきまして、2030年には人口が1万6,442人、2040年には1万2,495人に減少していくと推計をしております。この定住人口につきましては、国全体が人口減少を迎えている中、本市単独でこちらを維持、対応していくことはなかなか厳しい状況にあるものと認識をしております。

こうした中、まずは転出超過の原因となっております若者の流出を食い止めるため、仕事、住居確保、子育て環境の充実等、若者にとって住みやすいまち、暮らしやすいまちを総合的に目指していくことが必要であると考えております。

また、定住人口のほかに、交流人口や関係人口と呼ばれるものがあるわけでございます。黒船祭やあじさい祭などの観光イベントの充実をはじめ、本市の魅力的な地域資源の紹介、発信、体験プログラムの提供等を通じて、本市ファンの獲得や関わりを持ちたいと考えてくれる人を増加させること、そして、ワーケーションの取組もより一層注力していくことによ

り、交流人口や関係人口の増加を図り、本市として地域活力、経済活力の底上げにつなげていきたいと考えております。

私のほうからは以上でございます。

○議長（滝内久生君） 総務課長。

○総務課長（須田洋一君） 総務課でございます。私のほうからは、人口減少問題についてのうちの、組織・機構の抜本的な改革、部制による行政事務の効率化、それから人口減少対策室等、機構についての御答弁をさせていただきます。

組織・機構については、社会経済環境の変化に伴う新たな行政課題に的確に対応し、効率的に行政運営を行うために見直しを行うことも必要であるというふうに考えております。議員の御指摘のとおり、人口減少対策は当市においても重要な課題であると捉えてございます。この課題について効果的、効率的に執行するため、令和2年度には移住定住促進、関係人口創出等に向け施策を遂行する地域経済促進係を産業振興課に設置いたしました。

また、人口減少対策に関しましては、雇用、教育、子育て、医療など様々な分野が、またそういった施策が関連するために、そういったものを企画課企画調整係がコントロールタワーとなって関係各課と連携していくという手法を、現在、事業推進を図っているところでございます。

議員の御指摘のとおり、多くの職員が相互につながりを持って仕事をしていくことは様々な行政課題に対する的確に対応していくために不可欠であり、部制は庁内の連携強化が図れるなどメリットもあると思いますが、小さな当市でございます。限りある人員の中で制約も多く、なかなか今難しいのかなというふうに思っております。今後とも効果的、効率的に成果を発揮し得る組織の在り方について、引き続き模索していきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（滝内久生君） 産業振興課長。

○産業振興課長（長谷川忠幸君） 私のほうからは、人口減少対策として、大勢の移住者を受け入れられるような施策ということについてお答え申し上げます。

下田市は人口減少、少子高齢化への対応の一つとして、平成30年度より移住・交流居住推進事業を実施しております。移住者の増加に向けた取組としまして、静岡県やNPO団体と連携した移住相談会の実施、空き家バンクの運営、移住ポータルサイトによる情報発信、移住相談への対応等を行っておりまして、令和2年度からはコロナ禍に対応したオンライン相

談や休日相談の実施、また、移住希望者のニーズに応じた体験ツアー等を開催しているところでございます。

平成30年度から令和3年度末まで県外からの移住者につきましては46名で、すみません。移住者の合計は129名となっており、令和3年度は県外からの移住者については46名で、これは県内の11番目となっている状況でございます。

令和4年度におきましては、従来の取組を継続しつつ、新たに移住コーディネーターとして地域おこし協力隊員1名を採用する予定となっております。協力隊員には移住者目線での情報発信やきめ細かな相談対応など、移住促進に向けた活動を行っていただき、各団体とも連携しながら、移住希望者の方々には下田が移住地として選ばれるよう努めてまいりたいと考えております。

○議長（滝内久生君） 観光交流課長。

○観光交流課長（佐々木雅昭君） それでは、私のほうからは、今年の夏の海水浴場対策についてお答え申し上げます。

まず1点目の業務委託に関してでございますが、警備会社に委託する業務につきましては、条例違反をする者、海水浴客の双方に対しまして、条例第6条に規定しております禁止行為、また海水浴場のルールの周知を行うことを主な業務とする予定としております。条例に基づく中止の指示等につきましては、昨年と同様、行政の責任として実施をしてまいります。

昨年度、例年より踏み込んだ対策に取り組んだことで、条例違反行為を行う事業者の活動範囲を狭めるなど、一定の効果が得られました。今年の夏につきましては、市の対策強化と原田支部によるサービスの充実に加え、新たに警備員を配置することにより、さらに踏み込んだ対策を推し進めてまいりたいと考えております。

次に、条例改正の取組というようなことでございますけれども、今年の夏は、地元の皆様の御尽力によります浜地内でのサービスの提供によりまして、違反事業者の抑止に一定の効果がありましたことから、現行条例におきましても、違反事業者の排除に結びつく可能性も大いにあると感じておるところでございますが、持続可能でよりよい海水浴場等を目指すためにも、今後、条例改正が必要と判断した際には、海洋汚染防止の理念、浜辺周辺の年間利用、ライフセーバーの要請、また水難事故防止につながる取組など、今後の海水浴場を取り巻く環境も考慮して、総合的な観点から検討したいと考えておるところでございます。

以上でございます。

○議長（滝内久生君） 6番 佐々木清和君。

- 6 番（佐々木清和君） ありがとうございます。議長、これからは一問一答でお願いしたいと思います。

170周年記念事業、予定を10年ごとの区切りにやられてということでしたけども、もう2年弱、もうすぐ来るわけですけども、今から準備をしないといけないと思うんですが、今年度の補正予算を組んでいただきたいと思うんですが、市長、いかがお考えでしょうか。お考えをお聞かせください。

- 議長（滝内久生君） 企画課長。
- 企画課長（鈴木浩之君） 最初の答弁でもお話をさせていただいたとおり、具体的な事業内容につきましては、今後、早急に検討に入るということで考えております。そうした中で、必要な予算が生じた場合には、適切な時期に補正予算等の補正を含めた予算についてもお願いをするということ考えていきたいと思っております。

以上でございます。

- 議長（滝内久生君） 6 番 佐々木清和君。
- 6 番（佐々木清和君） ありがとうございます。必要なときにというお答えでしたけども、もう必要な時期ではないかと私は思っております。物事をつくり上げていくということは、非常に時間のかかることなんですね。私もいろんな地域活動をさせていただいてる中で、1年2年はあっという間に過ぎてしまいます。できたら最初にこの補正予算を今年度中に組んでいただくことが理想的かと思いますが、さらなる御検討をお願いしたいと思います。

それから、これからは質問というよりも、意見交換的なものになるかと思いますが、市長、お答えできるところで回答していただければと思います。市長も歴史にはお詳しいことがあるようですので、ひとつよろしく願いをします。

下田市は2004年3月31日を開港記念日とする条例を制定しているはずですが、しかし、この条例は市及び市民の皆様から全く関心が持たれておりません。その理由の一つは、条例を制定した下田市の開港記念日に対する記念事業などがほとんど実施されていないからだと思います。下田市の市民の関心もありません。年度末の3月31日では、記念行事の計画も実施できにくいのが実情だからだと思います。

市長、この機会に、旧暦の3月31日に合わせて現在の3月3日に改めることが、今後のイベントなどの実施にとって極めて有効ではないかと私は思っております。この条例改正検討をされたいかがでしょうか。お考えがあればお聞かせいただきたいと思います。なぜかという、河津桜と一緒に、より地域の意識の一体化が深化されるのではと感じておりま

す。先ほど言いましたように、3月3日とすれば、あと2年弱です。あっという間に来ます。今から行動を起こすべきだと思って、提案をさせていただいております。この条例改正について、市長、お考えがありましたら、思いを述べていただければと思います。

目的は、私も歴史に興味があっているいろいろ勉強させていただいてるんですが、下田市はペリー来航、黒船祭ですね、だけに収れんされておりますが、吉田松陰、歴史的には語られていないと思っております。私はよく、開国のまち下田は日本の歴史を大きく変えた日本回天のまちと、下田を訪れる知人や友人に紹介をしております。この回天のまちというのは、時代を変えるという転換期のことを表してるわけですけども、それをもっとアピールしていただきたいのは、市長はどう思うか分かりませんが、吉田松陰がもしアメリカに渡っていたら松下村塾はないわけですね。そうすると、明治維新が大きく変わります。久坂玄瑞、高杉晋作、吉田稔麿、木戸孝允、伊藤博文などなどの明治を形づくった人たちが果たして存在し得たかという、下田はそういう歴史回天のまち、これをもっとアピールすることで、下田の歴史的価値が上がってくると思うんですけども、もう少し歴史を表に出すような施策を考えていただけるとありがたいなと思っておりますが、この辺も市長が日頃から思っていることがありましたら、お願いをいたします。

私は驚くことは、松下村塾ができたのは、密航に失敗した松陰が萩に帰って松下村塾をやったんですが、教育期間は2年弱なんですね。教育は時間ではないというのは、これは松陰が実証で表してるわけですが、これは現在の教育の在り方にも一考の価値があると思いますが、これも私がかねてから主張させていただいている感動のまちづくりですね、教育についての。こういうことを力入れることによって、下田のまちが感動のまちということで評価されるのではないかとということで、吉田松陰をもっともっと表に出していただきたいという思いでございます。市長はどういうふうにお考えなのか、またお願いできればと思います。

それから、歴史をもっと表に出すということで、まだまだ整備がされてない、例えば吉田松陰が渡海に失敗して福浦に上陸したんですが、この上陸地の記念碑、みすばらしい形であります。こういうところも整備して、訪れるお客様が、吉田松陰はこの下田の港でこういうことを考えたのかという、そういうものを整備する。

それから、ペリー艦隊に同行したヴィルヘルム・ハイネが、リトグラフ画って、絵を描いてるんですね。従軍画家として。これには下田の須崎半島、バンダリア岬の砲台の跡とか、鼻黒のペリー一行がパレードに出発する絵とか、須崎町の住吉稲荷神社の絵とか残されてるんですが、こういう場所も絵と比較して記録に、歴史のコースとして整備できるような、整

備をぜひお願いしたいと思います。

白浜三穂ヶ崎の文化財指定の砲台跡も、これも幕末の史跡だと思います。開国のロマンを感じられる歴史資産だと思います。できたらこういう見捨てられてるような状態の史跡を、市長、170周年を機に、もっと歴史を表舞台に出していただければと思いますので、170周年については、アメリカからの黒船だけではなく、当時はロシアももちろん来たんですが、フランス、イギリスなどの国からも多くの船が下田に来ておりますので、170周年記念事業については、国際的な行事としてつくり上げていくことが大事ではないかなと思いますので、その内容をより実効性のあるものにしていいただければと思います。この辺も市長の思いがありましたらお聞かせください。これは質問というよりも、思いのあれを述べていただければと思います。

それから、少子化についてですが、これは私の、何ていうんでしょうかね、思いというか、答弁にもありましたように、下田だけではもちろん解決できません。これは世界的な問題でもありますし、日本の国全体の問題でもあると思ってます。

実は私は少子化は人災だったという衝撃な記事を読んだことを記憶してるんですが、日本は戦争に負けて、GHQが憲法を変えて、墮胎や避妊に関する占領政策を実施したわけですが、日本の少子化に向かわせようとしていたという記事だったんですが、私もこれ一部理解するところあるんですが、きっかけは1946年の食糧メーデーの宮城前のデモ、食糧不足から労働者が団結して行動を起こしたわけですが、当時、GHQはこのままでは労働運動が過激化するというので、人口減少案をつくったということで、私も一部これ納得するところがあるんですが、こういう歴史的な経過があるものですから、下田だけではなかなか対応は難しいと思いますが、こういう歴史を加味しながら、それであればどういう施策が必要なのか、皆さん、下田に住まわれる皆さんの考え方、思惑が変わっていくのがまず第一だと思うんですが、もう一つの少子化政策、私もこれ感じてるんですが、結婚に対する価値観が変化してきてる。これも戦後の学校教育もあると思うんですが、本来日本は結婚は家と家の結婚という考えが、結びつきという面が強かったんですが、憲法第24条で家を排除したことで、結婚相手を選ぶ自由、結婚しない自由が謳歌されるようになった経過があります。戦前と戦後で変化があまりにも大き過ぎ、私はこの論調には少し納得するところがあります。

そんな条件の中で人口減少を止めるのは難しいと思いますが、先ほど言ったように、チームをつくってやらなければ、市長、副市長が思い切った決断をしていっていただければと思います。思いをお聞かせいただければと思います。

それから、浜の問題ですけども、担当の職員の方はこれから大変になると思います。違法業者の取締りについて、専門のガードマンが、警備会社が入るということですが、結果的には市の職員が間に入って調整をするようになると思います。職員の安全についてちょっと気になるんですが、この業者との契約、これを議会に提示していただいて、こういう契約で今年は進みますよということで、契約書の提示がいただければと思います。

それから、事前の質問要旨の中で、私は夏の1か月のために海水浴場が破壊されるのは大反対なんですね。それで、コロナ対策でロープを張るのは今年予算が計上されなくて、自然な形で浜が楽しめるということだったんですが、私は逆に、白浜の場合ですと、私、白浜で育っておりますので、ハマヒルガオ、きれいな花なんです、こういうのが海水浴客の方に踏み荒らされてるんですね。逆にこういうところにロープを張っていただき、自然を守りながら、年間を通して海岸、下田の海岸が楽しめるような施策をぜひ各部の皆さんで考えていただきたいと思います。

それから、もう一つ、海水浴場で毎年県が水質分析をしていますが、吉佐美から白浜まで浜に流れ込む川の恐らく水質分析はされていないんじゃないかと思うんですけども、されているのであればあれなんです、もしされていないのであれば、定期的に浜に流れ込む川の水の分析、これは28項目でもそれ以上でも結構なんです、これをするによって自然の価値がまた上がってくるのではないかと思いますので、その辺も各課担当の方のお考えをお聞かせいただけないでしょうか。

私の思いはその辺でございます。質問というよりも、皆さんの考えがありましたら回答いただければと思います。

以上です。

- 議長（滝内久生君） 質問者にお尋ねします。ここで休憩したいと思います、よろしいですか。
- 6番（佐々木清和君） はい。
- 議長（滝内久生君） 午後1時まで休憩します。

午後0時2分休憩

-----

午後1時0分再開

- 議長（滝内久生君） 休憩を閉じ会議を再開いたします。

休憩前に引き続き、一般質問を続けます。

当局の答弁を求めます。

市長。

- 市長（松木正一郎君） 佐々木議員の今の様々な質問が、御自身おっしゃったように、質問という形というよりは、意見交換みたいなということで、私は議会の正しいルールについて云々するつもりはないんですけども、議論好きな青年のソクラテスと同じように、私はこういうお話は大好きですので、ちょっと私の考えを述べたいと思います。

それから、吉田松陰を畏敬しているというんでしょうか、大変私はすばらしい偉人だというふうに感じております。郷土とも関係があるということでも、もう20年ぐらい前だったと思うんですが、萩を訪れたことがございます。あのときに、松陰神社の中にあった松下村塾のあのみすぼらしさを見て、感動した記憶があります。こんなところで多くの未来の日本の礎を築いた人たちがみんなて話をしたんだなって、場所じゃないなっていうふうに、本当に寒い日だったんですけど、その寒い凛とした空気の中で感動したことを今でも覚えています。

御承知のように、松下村塾というのは、おじがやっていた塾、そこに軟禁状態だった松陰が、おまえやれって言われて、彼が、たしか二、三年、覚えてないんですけど、かなり短い時間だったと思うんです。それでも、あんなところのわずかな2年程度が、若者たちをどんなふうに育てたんだろう、そして行かなかった松陰がいろんな考えをそこで述べたというところがすばらしいなと思って、私もずっとそういったものは心の中にあって、それで今回、グローバルCITYと、こういうような表現にしたわけです。

これは、攘夷を叫んでいた、尊王攘夷の攘夷っていうのを叫んでいた彼らが、やがて本当に180度転換して、鹿鳴館で踊りを踊るようになるわけですね。そうした歴史的な転換期の人々の激動を踏まえて、下田はこれから新しい人づくりをするんだという、そういう考え方で、昨年度に策定しました教育大綱、この教育大綱の表紙に、吉田松陰が、弟子の金子重之輔ですか、その彼と一緒に指を指している弁天島のあの銅像、あれを黒い、真っ黒にして、彼らの姿をちょっと、何ていうかな、影絵のようにして表紙についていたんです。これを考えたのは教育大綱の担当をしていた学校の先生だそうで、私はそこにも非常に共感をしたところでございます。

上陸記念碑について、私はもちろん見てますし、ちょっとでもましになるようにしようということで、市役所でその周辺の草の刈取りをやったこともございました。ただし、この場合は上陸記念って呼べるかどうか、つまり、松陰がこぎ出していったということはいいいんだけど、そこに上陸するのは、何かこう、新しい一歩だろうかという、ちょっとこれは違う

ので、私は実は上陸記念碑については若干のまだ違和感が残っております。

こうした中、開港の日を新暦から旧暦に変えたらどうかと、こういうようなお話がございましたが、これは非常に難しい問題でございまして、例えば皆さん、私は忠臣蔵が好きなんですけど、忠臣蔵討ち入りの日は御存じでしょうか。12月の14日で、あの頃になると昔はよくそういった映画とかをリバイバルでやってましたけれども、私はこの映画も大好きで、古い、片岡千恵蔵とか、そういう古い人たちが出ている映画も買って見るほうです。

この12月14日に雪が降っていて、その中を討ち入りするというのと、実は新暦にすると1月になるわけですね。何か正月に討ち入りするというのもちょっと、やっぱり年の瀬の中で彼らが集まって討ち入ったというところに格好よさがあるんだろうなと思います。旧暦っていうのはそういう意味で季節とかなり合ってるんだそうですね。月とかの動きとどううまく連動しているということで、関ヶ原の戦いについても旧暦で言われる。これも、その日がちょうど満月だったからこの日を選んだんじゃないかと、こう言われているのを、新暦にしちゃうとちょっと分かりづらくなるというような、そういう話を、つまり難しいということです。簡単に変えていいかどうかというのはちょっと難しいというふうに考えております。

さて、人口減少対策でございますが、人口減少対策は一般論としてどこのまちでもやっている政策を先ほど私どもの担当課長も申し上げました。若干違うのが、例えばワーケーションとか、そういうようなことを申し上げましたけれども、通常の移住促進、例えば空き家のあっせんだとか、移住してくれたら幾らプレゼントとか、そういう話だとか、あるいは子育て環境の整備、拡充と、どこでもやってるわけなんですけども、下田市がやろうとしたのは2つの大きな柱がございます。これはどちらかというと、やっぱり私たちが工夫して、みんなで考えた末のものです。

一つが関係人口です。これは何度も申し上げております。人口が産めよ増やせよで増えるような、今、時代ではなければ、疑似的に人口を増やすということです。関係人口、観光のファン、下田のファンの観光の方もいらっしゃいます。それから、ビジネスとか、そういったことで下田に訪れる方もたくさんいらっしゃいます。実は私は下田は実験都市であるというふうにいるんな場所に言っています。ここでぜひ社会実験してください。電動自動車とか、無人の車とか、そういったことをやるだけでも、その人たちがここに来て、いろんなことを知ってもらう。やがて彼らは関わりを持っている。

下田というのは天城を越えたこっち側の拠点都市でございます。したがって、各企業の拠点支店がここにございます。ほかのまちだってもちろん支店はありますが、私たちのこ

の下田にある支店はちょっと大きめになるわけです。ここに仕事の関係で本店から人が時々いらっしやいます。下田のツーリズム、観光のウィークエンドは、休日は一般の観光客の皆さんがいらっしやるんですが、実はウィークデーは、こういったビジネス関係のツーリズムがあるんじゃないかというふうに私は感じています。せっかく下田に行くんだから、県庁からもそうなんですけど、せっかくだから関係者で一杯やろうと。私は金目を食べたいと、大体。そうですね、金目食べてってください。せっかくだから、じゃあ温泉も入ろうか。そうですね、じゃあ温泉入ってください。せっかくだから泊まろうかという感じで、結構泊まってくれるビジネスの方がいらっしやいます。ビジネスツーリズムという言い方を、私が勝手に呼んでるんですが、このビジネスの絡んだツーリズムが実は下田の様々な観光関係の供給の量と需要とのアンバランスの部分を平日でこうやって埋めてくれてるんじゃないかというふうに思います。

下田のまちの中の商業的な施設の数、はずかあそこに住んでいる定住人口とは随分とかけ離れたレベルにございます。もちろん昔元気がよかったときはそこに人がいっぱい住んでいましたけれども、今は若い人が少なくて、高齢者の一人暮らしのような世帯がたくさんいらっしやるにもかかわらず、あれだけの飲食店だとか、お菓子屋さんだとか、こういうものがあるのは、そこでお土産を買ったり、御飯を食べたり、一杯やったりする、そういうことだろうと思います。この関係人口をこれからももっと広げていく。先ほどのワーケーションもそのうちの一つになるうかと思ひますし、まあそういう感じです。

もう一つの柱が教育の魅力化です。このまちで子供を育てたい。このまちで育てば子供が国際人になれる。グローバルな視点でものを考えるようになる。そういうふうにしたかったんですね。

灘高にわざわざ行く人がたくさん日本にいます。私の知り合いで優秀な人たちは、静岡県の小学校、普通に小学校行くんだけど、ああそう、じゃあ中学はあそこって言うと、いえ、中学からちょっとよそにって、どこに行ったのって、いや、灘中ですとかですね、高校はよそに行って、灘高ですとかって言って、もう中学、高校からあそこで育てたいと。それは親御さんに聞いたら、灘高に行くと、灘中に行くと、ネットワークができて、やがて自分が社会に出て中枢をやったときに、各所で彼らがどうせあれしているんで、そういった関係ができる。これは大学からじゃ遅いんだってことを言っていました。

そんなふうにトップエリートの人たちは考えてるのかと思ってびっくりしたんですけども、私たちのところにもひょっとしたら進学といった可能性もあるかもしれませんけれども、

いわゆる有名大学への進学というのとちょっと意味が違って、グローバルな、あるいはグローバルな知、知識というか、知ですね。この知を深める、そういった教育をやれば、下田ですごいなっていうふうに思ってくれるんじゃないかと思ったんですね。

単なる黒船をお祭りにせずに、ああいったものを私たちの資源として活用して、そして、そこから私たちは地球上のいろんなところとつながることで、教育のさらなる魅力化ができるんじゃないかというふうに考えています。まさにこれこそが吉田松陰先生が考えていたことではないかと思うくらいです。

ハード、ソフト両面からのグローバルCITYでございますので、もちろん何らかの拠点施設というのは必要になるかもしれませんが、何はともあれ、やっぱり社会そのものを変革しなければいけない。私たちのこの下田のまちの教育だとか、暮らし方とか、そういったものを変革しながら、このまちの魅力を高め、人口減少対策に取り組んでまいりたいと考えています。

以上でございます。

○議長（滝内久生君） 副市長。

○副市長（曽根英明君） 私からは、人口減少対策室を設置してチームで取り組むべきという御質問にお答えしたいと思います。

人口減少対策は、先ほど総務課長のほうも御答弁したとおり、雇用であったり、子育てであったり、さらには医療、教育、まさに多岐にわたってございまして、まさに全庁的に取り組むべき課題でございます。こうした人口減少対策を進める上で、現在もまさに全庁の横串を通す企画課が中心となりまして、課を横断して全庁で今取り組んでいるところでございます。

行政需要というのが多様化、また複雑化する中で、この人口減少対策以外にも、一つの課ではできないような、課横断的に取り組まなければいけないような課題もございます。こうした様々な課題に対しても、効果的、効率的な体制を取りながら進めていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（滝内久生君） 企画課長。

○企画課長（鈴木浩之君） まず、条例改正の件でございます。下田開港記念の日条例、平成16年に制定をされております。この条文の中では、1850年3月31日と嘉永7年3月3日が併記という形になっている上で、開港記念日は3月31日とするという規定となっております。

当然、制定したときの経過、制定されたときの思い、様々あると思いますので、こちらに

つきましては、そういったものも再度検討、検証してみたいというふうに考えております。ただ、3月31日、なかなか年度の最終日ということで、確かに事業とかを実施するにはなかなか難しい日ということがございますが、この日というよりは、この思いをいかに伝えていくかということが大切かと思いますので、またいろんな点で検討していきたいというふうに思います。

あと、佐々木議員のほうから歴史の関係で多数の御提案をいただいております。今日この場で一つ一つにつきまして、やる、やらない、できる、できないという御答弁のほうは控えさせていただきますが、今回何度も出ておりますけども、下田市が本年度よりグローバルCITYプロジェクト、これに取り組むということで、開港の歴史、これが一つは大きな国際交流のスタートということで位置づけをしております。

また、グローバルという中のローカルの部分については、地域を学ぶということ、地域を知るということで、歴史につきましても、学ぶ一つの大きな柱と考えておりますので、今後もしそうした歴史の関係を学び、伝えるということについて、様々なテーマ、様々な事象があると思しますので、そちらにつきましては、その事業の中で取り組んでいきたいというふうに考えております。

170周年の事業の規模感のちょっとお話、担当の中でも話をしたんですけども、150周年は大きな、初めての大きな節目ということで、大規模に開催をいたしました。そういう中で、何年周期が大規模で開催するべきかという、そういう議論もちょっと中ではしておりまして、この170周年をどういう規模感にするかということについては早急に検討してまいりたいと思います。またよろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（滝内久生君） 福祉事務所長。

○福祉事務所長（芹澤直人君） 私のほうから、御質問の中にございました少子化、この対策についての取組についてお話をさせていただきたいと思ひます。

1つ目は、昨日の一般質問、中村議員の御質問の中にございましたふじのくに出会いサポートセンター、これについてでございますけれども、ふじのくに出会いサポートセンターは、静岡県で結婚を希望する方に出会いを提供するということで、公的な結婚支援サービスを提供していこうというものでございまして、既にマッチングシステムがスタートしているということでございますが、これにつきましては、昨年、令和3年11月にふじのくに結婚応援協議会といった組織が設立されまして、静岡県が主導なんですけど、県内の35市町が全て参画しております。下田市もこちらのほう参画しているということでございまして、県と市町が、

言ってみれば、佐々木議員からも御意見がありましたように、下田市だけでは解決が困難だと、少子化対策については、チームをつくって取り組む必要があるよというお話がありましたように、このふじのくに結婚応援協議会では、県内の35市町、県と市町全部がチームをつくりまして、広域的に全県で少子化対策に取り組もうというものでございます。

もう一つは、下田市の単独にはなりませんけれども、結婚新生活支援事業というものがございまして、結婚や新生活に伴う経済的な負担を軽減し、新婚世帯を支援するということを目的に、新生活にかかる費用ですね、新居の住居費であるとか引っ越し費用等について助成しようという制度がございまして、こちらについては下田市のほうが単独事業ということで、少子化対策の一環で取り組んでいるところでございます。

以上でございます。

○議長（滝内久生君） 観光交流課長。

○観光交流課長（佐々木雅昭君） 私のほうから、海水浴場の関係で、警備業務の契約書をとというようなお話だったかと思えますけれども、現在、契約書の中の一部の条項をちょっと関係機関に確認している部分がございます、業務内容をというようなことでございますので、仕様書も含めまして、この6月定例会会期中には何とかお示しできるのではないかというふうに思っておりますので、そういうことで御理解いただければというふうに思います。

それと、ハマヒルガオ等の自然保護をというようなことでございましたけれども、今年の3月定例会の一般質問でも同様の質問あったかと思えますけれども、例えば海水浴場期間に保全区域を設けるというようなことも解決策の一つとしてあろうかとは思いますが、ただ、年間を通してというようなことになると、当然、地元も含めてなんですけれども、管理者含めた議論が必要になってこようかと思っておりますので、今後また慎重に検討してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（滝内久生君） 環境対策課長。

○環境対策課長（鈴木 諭君） 私からは、河川水質検査の御質問がございましたので、お答えいたします。

下田市内の16河川22か所で年間2回から4回の河川水質検査を実施しております。海水浴場のというようなお話がありましたけれども、そのうち白浜海岸、外浦海岸、それから吉佐美の大浜、あるいは田牛等につながっている河川についても検査を行っております。

私からは以上です。

○議長（滝内久生君） 答弁漏れございますか。

6 番 佐々木清和君。

○6 番（佐々木清和君） 市長、いろいろありがとうございます。私が思うところと一致しているところがあるので、うれしく思っております。

それで、最終的な質問になりますが、課長の皆さんがいろいろお答えいただいておりますが、最終的な結論はやはり市長の答弁だと思いますので、改めて確認の意味でさせていただきます。

その前に、趣旨としては、私は歴史をもっと生かしてということで、いかに知っていただくかという趣旨でいろんな話をさせていただいたんですが、私思ってるのは、例えば子供たちに下田をよく知っていただくためには、下田の教育委員会、教育長おられますが、私は今までの枠に縛られない施策、例えば下田の開国の歴史をもって、学校の教育委員会、各学校の教育委員会に下田の教育委員会がキャラバンで回ると。下田はこういう歴史があるよと。修学旅行、勉強会で下田へどうだと、そういうことが教育委員会でやれるような発想を持っていいただければどうかなと思うんですね。下田の教育委員会から来たぞと。それを受けた他町の教育委員会のメンバーは、下田っていうのはすごいなと。教育委員会の連中が来るぞと。そこまでやるのかと。じゃあ行ってみようかと。そうなるんで、私は昔からの持論なんですが、そんな発想をしていただける教育委員会の中に職員の方がおられたらありがたいなと。また、新しく教育委員長になれる方が、こういうことを理解されていただける方がなられたらなおさらいいなというのが過去の経過で、今日までの経過で思ったことでございます。

それで、最終確認になりますが、170年の関係で補正予算、各課の課長さんが説明をいただきましたが、9月の議会に提案しますよという正確な答えはいただいております。熱海の土石流でも、土石流の対策課すぐ立ち上げて、早急な対応をしてます。熱海市は。下田もこの170年に対しても含めて、人口減もそうですね。縦割りの行政をなくすようにということで、まず9月の定例議会で開港170年の補正予算、どういうふうに市長は考えておられるのかということ、それから、市長の声を聞きたいと思います。

それから、契約の提示は、私は職員の安全のことを考えておりますので、その辺を知りたいということで開示を求めていますので、できるだけ早く開示をいただけたと思います。

それから、水の分析の結果は、何項目か分かりませんが、データとして頂ければ、私も確認させていただくことができますので。

それから、人口減少対策のチームを立ち上げていただきたいという提案だったんですが、

各課の課長さんいろいろ答弁されておりましたけど、市長として最終的に、私はこの縦割り行政、早急に直して、熱海の土石流ではないんですけども、そういうチームをつくらないと、やっぱり横開きの集まりではなかなかまとまらないんで、この辺、再度市長のお気持ちを確認ということでお願いをいたします。

それから、そうですね、一応各課の担当課長さんのお話ではなくて、市長の決断をとということで、最後の質問として確認をさせていただきたいと思います。

以上です。お願いいたします。

○議長（滝内久生君） 市長。

○市長（松木正一郎君） 先ほど各課長が申し上げたとおり、様々な課題をこれから総合的に調整をしまして、判断をするということになります。

例えば補正予算というのは、具体的に何の予算ということで佐々木議員がおっしゃってるのか、私はちょっと理解ができません。やる、やらないとか、あるいはどんなことがやれるだろうというのは、私たちが自分たちで考えることだろうと思うんですが、それを補正予算を計上というのは、どういう予算なのかが自分としては分かりません。

ですから、先ほど申し上げましたように、取りあえずは、まず私たちが様々な課題について、横断チームがありますので、それを使いながら、庁内において議論を深め、問題、課題を洗っておく。抽出して、対策を練る。その上で議会のほうにこのようなことをしたい、だから予算のほうをお願いしたいと、こういうことがあれば出させていただくと。このようになると思います。

以上でございます。

○議長（滝内久生君） 教育長。

○教育長（佐々木文夫君） 先ほどの教育委員会が歴史等々を他の教育委員会、あるいは学校へというお話がありました。現在のところは体験旅行、教育旅行について、観光交流課とタイアップさせていただきながら、教育委員会として各市の教育長、教育委員会に連絡をさせていただいたり、各学校長に連絡をさせていただいたりということで、教育旅行あるいは体験旅行について現在のところタイアップして行っております。

ただ、歴史というところまでは、歴史のまち下田という、そこだけではなくて、今言った体験ということの中で、あとは学校のほうがどういう体験を考えるかということが、また学校独自のカリキュラムがあると思いますので、そういうことも含めて、また検討させていただきながら、次へ引き継いでいけたらと思います。

以上です。

○議長（滝内久生君） 企画課長。

○企画課長（鈴木浩之君） 170周年の関係で補足をさせていただきます。

当然ながら、予算が必要な状態になれば、予算としての要求をさせていただくことになります。ただ、まず取りあえず始めるべきは、どういう事業をやるのか、どういう枠組みでやるのか、どういう形でやるのかというのをまず検討するのがスタートかと思います。その中で必要な予算が生じた際には、補正という形で、補正、当初、分かりませんが、予算という形でお願いをさせていただくというふうに進めさせていただきたいと思います。お願いします。

○議長（滝内久生君） 6番 佐々木清和君。

○6番（佐々木清和君） ありがとうございます。私なりに考え、腹案はあるんですけども、皆さんから相談があればいろいろ情報は提供できると思いますので、いつでも相談していただければという気持ちはございます。

それから、教育長、ありがとうございます。私が言わんとしているところは、教育委員会がそこまでやるのかと。じゃあ行ってみようかと。下田へ行くと歴史も分かるけども、観光的に自然もすばらしいと。彼らが大人になって、また来て、また子供を連れてまた来ると。それが一番目的なんで、一体感ですね。教育委員会もこれだけのことをやってるよと。学校のことだけでなくね。それを申し上げたかったんです。まちが一体となって前へ行くという、そこに教育委員会がどういうふうに参画できるかという発想、これは少し民間の考えが入ってまいりますけども、そういう職員の方が大勢出てくるといいなという発想でございます。市長を含め、ありがとうございます。質問の仕方もういろいろあったと思うんですが、言わんとするところは御理解いただければと思います。

また、実は市長、下田の市役所にトイレの札がございますね。アクリルと。あれは日露の開港で私が提案して採用していただいたんですが、採用していただいたのはいいんですが、相談もなく、ぼっと案文を作ったので、学校の教科書みたいな案内になってますけども、そういうもので私もまちづくりにいろいろ思いをはせているんで、またどういうものかいいんだろうということであれば、いつでも声をかけていただければ、一市民としてまたお話できるんじゃないかなと思いますので、今日のお話で、市長との考えが歴史的な問題については共有できた部分があるんで、本当にありがとうございます。

これで質問を終わらせていただきます。

○議長（滝内久生君） これをもって、6番 佐々木清和君の一般質問を終わります。